



浜松の高校文化祭に自衛官体験ブースを開設



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、6月2日（土）、浜松日体高等学校（浜松市）で開催された文化祭「第56回日体祭」において広報活動を行った。

今年の日体祭は、「華想」をテーマに掲げて開催され、演劇や有志によるミニコンサート、書道部・美術部の作品展示のほか、吹奏楽部によるマーチング演奏などが行われ、学校関係者や保護者を含む地域住民などが多数来場し賑わいをみせた。

同校の文化祭での自衛隊広報は3回目となることから、今年は自衛官募集相談員と協力して「自衛隊を体験」をテーマに掲げて広報ブースを展開。偵察用オートバイの展示や、災害時に役立つと評判の自衛官が日頃から身に付けているロープワークの体験コーナーを設けて自衛隊を体験してもらった。ロープワークを体験した生徒は「これなら普段から練習して、いざという時に活用できる。とても参考になった」と感想を話し、また、展示された偵察用オートバイに乗車した生徒からは「自衛隊の中でオートバイを使うのはどんな職種なのか」といった質問があり、自衛隊への興味や関心が高まったようであった。

会場には小さな子供も多く来場することから、子供でも簡単に作れる自衛隊オリジナル缶バッジ製作コーナーを新たに設け、子供たちにも自衛隊を体験してもらった。

一方、昨年5月に同校がある浜松市で発生した山林火災による災害派遣活動状況のパネルも展示し、災害派遣における自衛隊の活動など、幅広い任務を理解してもらう広報を行った。

静岡地本は、今後も学校や募集相談員と連携し、学生をはじめとする若者に自衛隊の活動や仕事に魅力を感じてもらえるよう自衛官の姿を目に見える形で広報していく。

「予備自5日間訓練」で即応予備自への志願を促す



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、6月15日（金）から19日（火）の間、板妻駐屯地第34普通科連隊（御殿場市）が担任する「予備自衛官5日間招集訓練」を支援した。

今回の訓練には、県内の予備自衛官75人が出頭し、体力検定や射撃検定、職種訓練等の訓練課目を実施し、自衛官としての能力が維持されているか確認するため、終始真剣に取り組んでいた。

小銃射撃検定では、成績優秀者上位3人に対し、静岡県隊友会予備自衛官部会から褒賞のメダルが贈呈された。

また、即応予備自衛官の有資格者には、より活躍の場が広がる同制度の魅力や概要とその重要性を伝え、即応予備自衛官への志願を促した。

訓練最終日には、永年勤続者5人に、それぞれ陸上幕僚長、東部方面総監、本部長の各表彰が、最終任期満了者2人には東部方面総監顕彰状が贈られ、静岡地本の坂下仁志副本部長からそれぞれ伝達・授与された。また、併せて永年勤続表彰者に対して、静岡県隊友会の加藤泰樹副会長から記念き章が贈呈され、激励の言葉が添えられた。

静岡地本は、今後も普段は民間においてそれぞれの職業に従事しつつ、時間を工面し訓練継続している予備自衛官を積極的にサポートするとともに、予備自衛官の募集・採用業務及び円滑な訓練出頭調整を実施して、防衛基盤の確立に努めていく。

高校2・3年生に防大・防医大をPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、6月16日（土）、藤枝明誠高等学校（藤枝市）で開かれた「校内大学入試入学説明会」に参加し、防衛大学校・防衛医科大学校をPRした。

この説明会は同校の2・3年生を対象に、3年生は入試入学説明会、2年生は学問系統別説明会と2部構成で行われ、自衛隊ブースには3年生2人と2年生12人が訪れた。

防衛医科大学校を希望している3年生は、広報官から医学科、看護学科それぞれの特色や試験に関する説明を聞き、「他大学の医学部と同様に、防衛医科大学科もとても難しいと思うが、合格できるように頑張りたい」と決意を語った。

また、2年生の学問系統別説明会は、防衛大学校、防衛医科大学校医学科、看護学科の3コースに分かれ、それぞれの制度説明を行った。ブースを訪れた生徒は、熱心に広報官の説明に耳を傾けて疑問点などを質問し、「今回の説明を聞いて自衛隊に興味が出た。次の機会にまた詳しい説明を聞きたい」と話した。

静岡地本は、県内に所在する高校との連携を更に強化し、生徒たちに自衛官という職業の魅力を伝え、進路選択肢の一つに自衛隊の存在を高めていく。